

軍事・歴史・政治・経済研究紙

MONTHLY DAITOH-NEWS

本紙の年間購読は本体3,000円+税です。

日本の秩序崩壊のシナリオ

超限戦と情報戦に賭ける中国
中国の「情報戦」に対する熱の入れ方は異常なものがある。「超限戦」を巧に操作しながら、限定された戦争展開を超越し、新たな戦術をあみ出し、その戦術に従って、次の戦略すべき国家展望を打ち出すのである。この戦争思想の下には、仮想敵国をアメリカとアメリカに追随する、日本などの先進工業国においているようである。この具体的な戦法としては、コンピュータを駆使してのハッカーの養成であり、アメリカの軍事網を根底から混乱させ、破壊することにある。この破壊工作を情報戦と言ひ、数学者や理学者の養成を、少年少女時代から秘密裡に猛特訓する国家戦略政策が展開されている。

言うのが、日本のこれから歩かされる道筋である。このシナリオに従って、世界の縮図は塗り替えられるのである。

現在、日本が有事立法に對し時の権力者が敏感になっているのはこの為であり、また一方、左翼陣営では「戦争放棄」を高らかに謳い上げ、無知な国民を騙し続けている。日本国憲法第九条を持ち出し、平和主義をスローガンにしたたかな「心理戦」が水面下で展開されているのである。「心理戦」の宗とする所は、「動揺」である。人の心を恐怖心に落とし込んで、その解決策にある種の選択肢を設定し、それ以外に何も無いと思わせる所にある。人の心の弱さに、巧妙に付け入る心理学 (psychology / mental philosophy) の西周による詭譎。西は啓蒙思想家であり、明治六年に創立された森有礼や福沢諭吉らの「明六社」のトツメンバであったことに注目。西洋哲学を紹介し、フィロソフィアの詭譎「哲学」は彼による。進歩的文化人の発祥ルーツはここから起る。西の影響を受けた中江兆民もフランスより帰国後、ルソーの『民約論』を啓蒙した(た)で言う「精神現象の歪み」である。

更には相手国の国民に動揺を与えたり、反対勢力の養成を図る「心理戦」が展開され、日本では進歩的文化人(特に朝日新聞や岩波書店に所属する、一般に権威筋と信じられている日本共産党に属さない左翼主義者)や、有識者で組織するシンパサイダーと言つ連中にマスコミなどで積極的に発言させ、これを権威筋の言葉として岩波書店などで出版し、国民を、権威筋で揺さぶる作戦が展開されている。

更に最後に鎮座するものがBC級・化学兵器や細菌兵器を動員して「化学戦」を展開しつつ、戦闘状態に相手国を陥れて、国内の秩序を混乱させ、同時にデマをもつて「マスコミ戦」に転じ、外交交渉によって「外交戦」を転じ、日本近海の資源を抑える事によって「資源戦」に転じ、あるいは中国国内の技術革新を達成して「技術戦」に転じ、アヘンや覚醒剤を密貿易して「貿易戦」に転じる作戦が企てられている。

一方、「国家安全」の定めるテーマは次の通りである。

その第一は、中華人民共和国は一九六四年十月に最初の核実験に成功し、世界の尊敬を集める核保有国大国になった事に因み、「人間は生まれつき強い者に随い、それを敬うものである」と定義した後、中国の国家戦略は強者の意識によって世界の覇者として踏み出す第一歩を核保有国に挙げていく。

第二は、中国の歴史はその近代史において、日本、イギリス、ドイツ、フランス、アメリカが、中国の国を侵略し、こうした歴史の事実を忘れてはならないと言つ事を次世代の若者に根強く植え付ける根本に置いている。特に反日感情を煽るような教育が中国ではなされ、これはまず、日本を人身御供にして血祭りに挙げ、日本国民を苦汁の極みに追い込まなければならぬとしている。

第三は、現世紀における二十一世紀の世界的規模の戦争は陸上戦ではなく、空軍力と海軍力を駆使して、空軍の戦闘機とミサイルに支援された空爆を展開しつつ、同時に空軍の支援を受けた海軍は洋上から敵国に攻撃を加える洋上作戦を展開する事を挙げている。

第四は、石油資源を中東からの輸入に頼っている日本は、南シナ海及び東シナ海をその生命線としている。しかし同時に南シナ海は中国の生命線でもある。この生命線を犯す日本は撃破しなければならぬ。

第五は、日本は中国の領土である釣魚台群島(尖閣諸島)に手を伸ばそうとしている。しかしこれは中国の領土であり中国は「主権属我、擱置爭議、共同開發……」(島と周辺海域の主権は中国にあ

る。しかし今は一応棚上げして日本と共同開発した後……これを日本から取り上げるの意味)であり、これをエサに、漁業や海底探査などを民間に任せ、あるいは民間人を駆使して接触させ、この問題で摩擦を起こさせ、散々に揉めさせた後、ここに中国が軍事力をもつて介入する。

第六は、日米安保体制はこれまでの防衛型から攻撃型に変わりつつある。歴史が示すように、海洋は強大化国家によって統治されなければ国家秩序は保てない。国際秩序を保つ上で、中国こそそれに相応しく、将来の海洋から軍事的挑戦に対する即応力を強化して、日本の攻撃型軍国主義から共産党政府は中国人民を護らなければならぬ。

この第六の定義は、「中国人民の利権と生命を護る」と称して、いま中国では日本の政府開発援助と無償援助によってこの資金を使い、二万五千名以上の工兵と、十数年の歳月を費やして、将来、日本とアメリカとの核戦争を想定して約四平方キロの広大な艦隊基地を完成させた。

この艦隊基地は台湾情報によれば、「二〇四工程」、香港情報によれば、「二〇二四工程」と世に知られており、アジア屈指の規模を誇る秘密基地が完成しているのである。

一九九六年九月の釣魚台事件の時には、この秘密基地からロシア製のキロ級潜水艦が出動し、日本と台湾の武力衝突を企てようとした。潜水艦の出動命令の任務は、台湾漁船と衝突する日本の海上保安庁の巡視船を潜水艦が撃沈し、日台間に紛争の火種を投じる事であった。

しかし当時、返還間近い香港人の愛国的な行動(釣魚台は中国の領土と主張する香港人の集団行動)に邪魔された上、日本の二十数隻の海上保安庁の巡視船と、海上自衛隊の数機の対潜哨戒機やヘリコプターを見て、潜水艦側は撃沈を諦め、引き上げたと言つ事件が起った。

現在中国は、日本を攻撃型軍国主義の復活と詰つているが、中国こそ軍拡に路線を突き進んでいる国家であり、現に人民解放軍軍政大学では「平和とは、一つの戦争と次の戦争の間に挟まれた、ほんの短い期間に過ぎない」と定義しているのである。そして社主義建設に際し、戦争と言つ暴力は必要不可欠な行為であると明言しているのである。(独眼電)

ストは、「汝の信仰、汝を癒せり」を確信するのである。

そして日本では例の無い事であるが、メアリー・ベーカー・エディの信仰治療体系に、これが医学の常識に反すると言つて批判し、この治療体系であるクリスチャン・サイエンスに反論を唱えた医者が一人も居ないと言つ事であった。また、クリスチャン・サイエンスがアメリカ全土に急速に広まった時、メアリー・ベーカー・エディに批判を企てたり、抗議をすると言つ医者や医療集団は殆ど無かつたと言つ事である。日本とは全く異なる社会現象が、当時アメリカでは起つた事を物語る。

アメリカと言つ国がキリスト教国家であると言つ現実も去る事ながら、キリスト教への確信的な信頼は多くのアメリカ人に抵抗なく受け入れられている現実がある。したがってクリスチャン・サイエンスは、アメリカ人にとって有効な病氣治しの極め手となった。信仰治療体系の方法に確信を持ち、これを信じて疑わないファンダメンタリストに対し、不完全帰納法に、旧態依然に既存し、依拠する近代医学は、医者自身の治療法に確信を持ち得ない一面が存在している。

だからこそファンダメンタリ

の利権と生命を護る」と称して、

いまま中国では日本の政府開発援助と無償援助によってこの資金を使い、二万五千名以上の工兵と、十数年の歳月を費やして、将来、日本とアメリカとの核戦争を想定して約四平方キロの広大な艦隊基地を完成させた。

この艦隊基地は台湾情報によれば、「二〇四工程」、香港情報によれば、「二〇二四工程」と世に知られており、アジア屈指の規模を誇る秘密基地が完成しているのである。

一九九六年九月の釣魚台事件の時には、この秘密基地からロシア製のキロ級潜水艦が出動し、日本と台湾の武力衝突を企てようとした。潜水艦の出動命令の任務は、台湾漁船と衝突する日本の海上保安庁の巡視船を潜水艦が撃沈し、日台間に紛争の火種を投じる事であった。

奇蹟を起す「聖書」の実体 (その四十六) 米国イオンド大学教授 曾川和翁

汝の信仰、汝を癒せり
メアリー・ベーカー・エディ (一八二一―一九〇一) は、アメリカのファンダメンタリス トとしては最も有名な人物である。またクリスチャン・サイエンスの教祖でもある。メアリー・ベーカー・エディは「人間の疾病はもとも存在しない」とする論理を掲げ、キリスト教に立脚した信仰を実践すれば、例え一時的に病氣に罹っても、それは「癒せる」とする信仰治療体系を広めた人物である。彼女は「福音書」をベースに、「汝の信仰、汝を癒せり」という信仰治療体系を広めて廻った。彼女の信用するものは、ただ一つ。それは「福音書」だけである。医者も信用せず、病院も信用せず、人間が病氣に罹ると言つ事も信用しない。また近代医学すら信用しなかつた。

「イエスが病人を治した時、医者が居たか、病院があつたか、近代医学と言つものが存在したか」と問う。

治す時、そんなものを遣わす、

の利権と生命を護る」と称して、いま中国では日本の政府開発援助と無償援助によってこの資金を使い、二万五千名以上の工兵と、十数年の歳月を費やして、将来、日本とアメリカとの核戦争を想定して約四平方キロの広大な艦隊基地を完成させた。

この艦隊基地は台湾情報によれば、「二〇四工程」、香港情報によれば、「二〇二四工程」と世に知られており、アジア屈指の規模を誇る秘密基地が完成しているのである。

一九九六年九月の釣魚台事件の時には、この秘密基地からロシア製のキロ級潜水艦が出動し、日本と台湾の武力衝突を企てようとした。潜水艦の出動命令の任務は、台湾漁船と衝突する日本の海上保安庁の巡視船を潜水艦が撃沈し、日台間に紛争の火種を投じる事であった。

しかし当時、返還間近い香港人の愛国的な行動(釣魚台は中国の領土と主張する香港人の集団行動)に邪魔された上、日本の二十数隻の海上保安庁の巡視船と、海上自衛隊の数機の対潜哨戒機やヘリコプターを見て、潜水艦側は撃沈を諦め、引き上げたと言つ事件が起った。

現在中国は、日本を攻撃型軍国主義の復活と詰つているが、中国こそ軍拡に路線を突き進んでいる国家であり、現に人民解放軍軍政大学では「平和とは、一つの戦争と次の戦争の間に挟まれた、ほんの短い期間に過ぎない」と定義しているのである。そして社主義建設に際し、戦争と言つ暴力は必要不可欠な行為であると明言しているのである。(独眼電)

ストは、「汝の信仰、汝を癒せり」を確信するのである。

そして日本では例の無い事であるが、メアリー・ベーカー・エディの信仰治療体系に、これが医学の常識に反すると言つて批判し、この治療体系であるクリスチャン・サイエンスに反論を唱えた医者が一人も居ないと言つ事であった。また、クリスチャン・サイエンスがアメリカ全土に急速に広まった時、メアリー・ベーカー・エディに批判を企てたり、抗議をすると言つ医者や医療集団は殆ど無かつたと言つ事である。日本とは全く異なる社会現象が、当時アメリカでは起つた事を物語る。

アメリカと言つ国がキリスト教国家であると言つ現実も去る事ながら、キリスト教への確信的な信頼は多くのアメリカ人に抵抗なく受け入れられている現実がある。したがってクリスチャン・サイエンスは、アメリカ人にとって有効な病氣治しの極め手となった。信仰治療体系の方法に確信を持ち、これを信じて疑わないファンダメンタリストに対し、不完全帰納法に、旧態依然に既存し、依拠する近代医学は、医者自身の治療法に確信を持ち得ない一面が存在している。

だからこそファンダメンタリ

の利権と生命を護る」と称して、

いまま中国では日本の政府開発援助と無償援助によってこの資金を使い、二万五千名以上の工兵と、十数年の歳月を費やして、将来、日本とアメリカとの核戦争を想定して約四平方キロの広大な艦隊基地を完成させた。

歴史を工学的に科学する

〒802-0985
北九州市小倉南区志井6丁目11-13
(尚道館ビル2F)
九州科学技術研究所
093(962)7802 FAX093(961)8224
Eメール: science@daitouryu.com



九州科学技術研究所 URL
http://www3.ocn.ne.jp/saigouha/
大東流霊的食養道HP
www.daitouryu.com/syokuyou/
癒しの杜の会HP
www.daitouryu.com/iyashi/